

—立山カルデラの生き物たち—

# ツキワグマ の鼓動



山と川と人のミュージアム



立山カルデラ砂防博物館  
Tateyama Caldera Sabo Museum



# 1

## ツキノワグマって どんな動物？

～クマの生態を調べる～

クマの足の裏、見たことありますか？

野生に住むクマを観察することはなかなかできません。そこで考え出されたのが、クマに発信機を着けて居場所を特定するという方法。でも発信機を着けるにはクマを捕まえなければいけません。え!? いったいどうやって? この章ではクマの捕獲から追跡までの方法と、この本に登場するクマ達のプロフィールを紹介します。捕まったクマを間近に観察してみましょう。



クマを捕まえるための罠 バレルトラップ  
中にハチミツが入った容器を仕掛け、これをクマがひっばるとフタが閉まる仕組み。





直接観察されたゴンタ



ブナの冬芽



ブナの冬芽の食べあと



地面に落ちた折られた枝

## 翌春4月23日

再び冬眠穴を訪れてみると、穴のすぐ近くの雪の上を歩くゴンタを発見しました。その後、しばらく観察していると、スルスルとブナの木に登り枝先の冬芽を食べ始めました。この時期の冬芽は芽吹きというにはまだ早く、堅い殻（芽鱗）に包まれた状態です。この年はブナが大豊作の年で、冬芽の中には花や葉っぱのつぼみが入っていて栄養価の高い食べものだったようです。



穴の中

ゴンタが冬眠していたブナの木に近づいてみると、根もとに小さい穴の入り口が空いていました。なかに入ろうと試みたのですが、肩がぶつかってははいけません。11月に捕まったときに80kgあったクマがこんな小さい穴から入ったとは驚きです。入り口の奥は木の幹に空いた部屋のような空洞につながっていました。部屋の底は鳥の巣のようなすり鉢状。カメラだけをつっこんで、ようやく中の様子がわかりました。

何日に穴から出てきたのか正確には分かりませんが、穴の周りをしばらくウロウロして草を食べていたのでしょうか。緑色のウンチが落ちていました。



# 9 ブナとクマの一年



ブナに登り花を食べるクマ

## 4月

春、冬芽もほころび萌黄色もえぎに染まったブナの森を見つめると、ポツンと黒光りする点が見つかることがあります。クマが木に登りブナの新芽や花を食べているので



ブナの花

す。ブナの花がたくさん咲いた年には一度に5頭のクマが食べているのを観察できたこともありました。やわらかい春のごちそうを堪能しているようです。



ブナの花を食べたときの黄色い糞

## 8月

数年に一度訪れるブナの豊作の年。こんな年はたわわに実ったブナの実で木が茶色に見えます。でもまだまだイガは堅く、中の実は食べられません。



たわわに実ったブナの実

## 9月

9月の中旬ごろになるとようやくイガがほころび始め、中には1.5cmほどの小さい実が見つかります。クマは待ってましたと木に登り実を食べます（詳細は3章参照）。この実は脂肪がたくさん含まれており人間が食べて非常においしいドングリです。



ブナの実、人間が食べてもおいしい



# 4

## あし くら じ 芦 峠 寺、 かり やま し 狩 山 師 の 記 憶

クマは山に生活する隣人

●

そう当たり前のようにとらえて生活している人たちがいます。立山山麓、芦峠寺集落。ここはかつて立山信仰とガイドの村として栄えた宿坊集落でした。立山黒部アルペンルートの建設が始まる昭和30年代まで炭焼き、木こり、山菜採り、熊狩りが人々の生活を支えていました。今でもなお熊狩りの伝統が残るこの地では山に獺に出ることを“狩り山に行く”といい、その獺師のことを狩り山師と呼びました。



いよいよ獵場へ  
(スゴ平・昭和初期)  
(佐伯高男氏所蔵)



大熊に槍をつける(スゴ谷・昭和初期) (佐伯高男氏所蔵)



## 2 5月 カルデラのクマ牧場



カルデラの壁面にできるクマ牧場



草場にいるクマ [拡大]

地元の猟師さんや山小屋の人達にクマ牧場とよばれている場所があります。そこは雪が解けたところから、順々に草が生えてくる。谷沿いに残る白い雪と新緑の草地との対比が綺麗です。ここでは多いときにはクマが3頭とか5頭とか見られることもあるそうで、生えたばかりの柔らかい草を食べにクマたちが集まるようです。



草場にいる白っぽいカモシカ



黒っぽいカモシカ

このような草場ではカモシカも好んで草を食べています。一見するとカモシカとクマを間違えてしまいそうですが、クマの独特な黒光りをした毛並みはなれるとすぐにわかります。ただし草を食べた痕跡だけではクマとカモシカを見分けるのは難しいようです。



アザミの食べ痕